

「知床半島先端部地区利用の心得」普及啓発媒体作成方針

2017/3/9

釧路自然環境事務所

主旨

知床半島先端部地区（以下、先端部地区）は極めて原始性の高い自然景観と豊富な野生生物によって形成される多様な生態系が残されている地域であり、一般の利用者による積極的な利用は想定されていない。一方で、知床ならではの質の高い自然体験の機会を求めて多様な利用者が訪れる場所でもある。

原始性の高い自然景観の保全と質の高い自然体験機会の提供を両立するため、レクリエーションを目的として先端部地区を利用する際のルール「知床半島先端部地区利用の心得」（以下、利用の心得）を定めているが、先端部地区利用者への周知状況は十分とは言えず、不適切な利用や危険な事故事例が見られる。

このような背景から、利用の心得を先端部地区利用者へ周知する媒体を作成する。

1. 目的

- ・先端部地区を利用する人及び利用したいと思っている人に対して、利用の心得の内容を周知する。
- ・利用する際の注意事項を伝え、安易な利用による事故等の防止を目指す。

2. 媒体案

以下の2種類の媒体を組み合わせ、周知を行う。

- ① Web サイト（シレココの改訂）
- ② パンフレット（利用形態別）

3. 普及啓発媒体製作案

- ① Web サイト（シレココの改訂）

先端部利用予定者が準備段階で参照することを想定。利用の心得の内容及び先端部の利用に必要な装備や危険箇所など準備段階で必要な情報を提供する。

【改訂内容】

- ・利用の心得に新たに追加された事項を追加掲載する。
 - 海岸トレッキング利用における危険箇所の追加及び詳細の記載
 - シーカヤック利用における危険箇所の追加及び詳細の記載
 - ヒグマやキツネによる被害及び遭難等の例示
(ヒグマの事例に関しては特に先端部事故事例等を掲載する。)
- ・各利用形態別のページで、「利用の心得の内容」と「利用する際準備すべきこと」の2点が伝わるよう内容を整理・拡充する。準備に必要な情報としては装備、危険箇所の情報等を想定。また、危機管理に必要な情報を提供しつつ、先端部地区の魅力も伝わるよう伝え方を工夫する。
- ・現行の記載を流用する際は記載内容に間違いがないかを確認し、必要な部分の修正を行う。

- ・準備段階で必要な情報（地理院図には記載のない地名の危険箇所（トッカリ瀬等）、コースタイム・距離、標準コース、浜言葉の地名など）を載せた地図を掲載。

【備考】

- ・他の HP からのリンクの充実や検索エンジン（Yahoo!、Google など）での検索結果表示の改善によって、アクセスしやすい環境を整えることが必要。
- ・現行サイトのリンク集にある国土地理院の地図閲覧サービスや海上保安庁の海洋速報へのリンクは継続。利用者が自ら行動を判断するための情報を提供できるようにする。
- ・安易な利用に繋がらないよう、各利用形態の難易度を伝える工夫をする。先端部地区は総じて難易度が高いため、グレード表示ではなく、難所の情報を写真付きで掲載するなどの方法で難易度を伝える。
- ・利用者にはルサフィールドハウスや羅臼ビジターセンターで事前にレクチャーをうけてもらうよう誘導する。
- ・現地ではか得られない情報があることも踏まえ、最新情報も含めた掲載内容については要検討。

② パンフレット（利用形態別）

海岸トレッキング、シーカヤック、登山、サケ・マス釣りの 4 種の利用形態別に作成し、現地（ルサフィールドハウスや渡船など）で利用者に配布することを想定。心得全体の周知ではなく、現地で守って欲しいルール、危険箇所の攻略法など、現地で必要な情報を主に掲載する。（動力船は、利用者に対するルールではないので、紙媒体では作成しない）

【仕様】

形 態：パンフレット

大 き さ：A5 4 or 8 ページ程度

【内容】

主に、ヒグマへの対処方法、野営の注意点、漁業活動への配慮、野生動物への配慮、サケ・マス釣りのルール、など現地で注意してほしい事項を掲載。利用形態別に具体例等交えながら、わかりやすく心得の内容を伝えられるようにする。

【備考】

- ・利用者が最も必要としており、事故回避にも重要な危険箇所の攻略法については、特にわかりやすさを重視して掲載する。
- ・パンフレットの配布形態（シレココでダウンロード可能、施設等で配布、レクチャーを受けた者のみに配布、利用形態別で配布方法を変える、など）については要検討。
- ・25,000 分の 1 以上の地理院図など詳細な先端部地区全体の地図については、利用者が事前に準備してくることを前提とするため、現地での配布を想定するパンフレットには掲載しない。